

太 工 同 窓 会 報

第 11 号

昭和56年11月 1日
 群馬県立太田工業
 高等学校 同 窓 会
 太田市内ヶ島 1350
 電話 0276(45)4742

創立二十周年を迎えて

同窓会長 林 進 一

同窓会員の皆様におかれましては、その後も益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。

我が母校も創設されて二十周年を迎えることとなりました。

帰りますと、我々一期生が入学式を行なった仮校舎の金山高等学校や現在の新校舎へ移転当時の校庭整理及び雑草取り等の思い出は一期生でないとあじわえなかつたものと思います。

我々一期生が卒業した時は、実習工場が二棟と三角屋根の体育館だけでした。時代の進展に伴ない施設、設備が拡充され二階建ての実習教室や武道館が建てられた。二十周年を迎えるに当り、音楽室と視聴覚教室が県当局の特別なご配慮により、立派な施設として、落成しました。二十周年記念として、十月三十一日土曜日の午後と十一月一日日曜日を学校開放致し

ます。ぜひ、この機会に学校施設の充実ぶりをご覧下さい。

本校創立二十周年に当り、同窓会員の皆様には、今後共母校発展のため、ご指導ご協力をお願いします。又、同窓会役員も努力していきたいと思ひます。

同窓会員の益々の発展とご健康を心よりお祈り申し上げます。

創立二十周年によせて

校長 森 村 宏

同窓生の皆様にはその後も益々お元気で活躍のことと存じます。国の科学技術教育の振興、高校急造対策という時代の要請と近代工業都市建設をめざす地元の高い要望により、本校が創設されてから二十周年を迎えることになりました。

創設期における先輩教職員、生徒各位の全校一丸となつての学校づくりを基盤に、時代の進展に伴い施設、設備の拡充を図りつゝ教

育内容の充実に努め、県下でも他に類をみない素晴らしい教育環境と立地条件に恵まれ「明朗誠実、実力、心身健全」の教育方針のもとにすぐれた教育実績をあげ、名門校としての地歩を確立しつつあることは誠に喜ばしいことであります。この間、四八〇〇名余の有為な卒業生を世に送り出し、地域はもとより全国各地において産業界の有能な担い手として活躍しておられますことは誠に喜びにたえないところであります。

開校以来、本校では生徒の情操教育に音楽を履修させておりますが音楽室がなく、また科学技術教育には必須ともいふべき視聴覚室もありませんでした。これらの施設の設置は教職員、生徒にとつて多年の願望でありました。創立二十年を期して県当局の特段のご配慮により、これらの立派な施設の落成をみましたことは、今後の本校教育の充実に大きな成果をあげると確信いたします。今後はこれら施設、設備の充分な活用を図り、有為な人材の育成に努力する所存であります。

創立二十年を迎えるにあたり、本校創立のためにご尽力をいただいた県当局、太田市をはじめ地域の各市町村に対し深く感謝の意を

表わすとともに、創設期における校長先生をはじめ諸先生の熱心なご指導と生徒各位のご努力に思いを馳せ、更に「真面目で明るく、心身健全な工業人の育成」という初代嶋岡校長先生の建学の精神に思いを新たに、全校教職員が一致協力して教育指導にあたり、本校の発展に全力をつくし、もつて地域のご厚意に報いたいと念願するものであります。

幸いにして教職員、生徒各位の熱意と努力により「資格の取得に結びつく工業教育の実践」という本校独自の教育が実を結び、高圧電気工事技術者、電気工事士をはじめ専門教育と関係の深い各種資格の合格率は、県内はもとより全国においても有数の好成绩をあげております。また、野球部の県大会準優勝二回、体操部の県高校総体第二位、あかぎ国体強化指定をはじめ、体育部、文化部の活動にもめざましいものがあります。

人間にたとえれば二十歳は成人の年であり、社会においても更に躍進すべき年代であります。本校も創立二十年を契機に、二十一世紀に向つて逞しく、大きく雄飛することを心から念願して、創立二十年のごあいさつといたします。

20年間の思い出

初代事務長 中村 勇 司

今年三月三十一日を以って、60才の停年を迎え本校を最後に退職いたしました。この間太工同窓会会計として、長い間同窓会員の皆様には本当にお世話様になりました。無事に大任を果すことのできましたことを心より厚くお礼申し上げますと共にご援助ご協力を感謝申し上げます。

私は昭和三十七年四月一日初代校長嶋岡平蔵先生と共に太田工業高等学校に赴任を命ぜられ無我夢中で第一回入学生を迎える準備に奔走した当時の思いで、発表を関東学園短期大学で済ませ、仮校舎を太田市鳥山の金山高等学校でと目の廻るような日々でした。昭和三十七年四月七日第一回入学式はよい日和でした。春の柔らかな日差しの中で選ばれた三二名の生徒、来賓、父兄と新設高等学校建設の意気に燃える先生方の出席の下に実に荘厳に行なわれ、太田工業高等学校の歴史の出発の第一頁を踏み出した事を今でもはつきりと心に焼付いて忘れることは出来ません。長い間東毛地区に工業高校設置を心待ちしていた住民、また地域の会社、工場の方々にとってこの喜びは大変なものでありまし

た。施設設備の充実等については、県当局を始め太田市を中心とする関係市町村長、議長、担当者の方々の絶大なるご支援ご後援を得てPTA、学校後援会、同窓会の各位のご尽力により内容に於いて誇れる整備がされたのであります。このように総ての方々のご配慮と、入学されてきた生徒諸君のたゆまざる勉学の精神と努力の積み重ねにより、その名声は日増に上り、県下高等学校の中でも有数な高校として確固たる基礎を築き上げたのであります。これひとえに卒業生諸君等の成果であると確信いたします。

入状況等については良好のためスムーズに検査、監査を受けることができました。数多い生徒のご配慮で一人一人がご協力願はねば到底実現出来得ない事なので、よくも二〇年の長い間継続してよ成績があげられたことを今更の如く卒業生諸君の偉さに敬意を表する次第です。

方のご指導を忠実に守り生徒として自分を誇を以って全うしたからでせう。実習用施設、設備については特に使用に当っては充分な配慮が払われ又保存についても一目瞭然整備された教育的効果を充分に発揮されたこと等どれをとってみてもただ頭の下る思いでありました。このような立派な学校で二〇年間楽しく過ごさせていただいた事を嬉しく懐しく思います。会員の皆様様の健勝を祈念し、同窓会の益々のご隆盛を心からお祝い申し上げます。

ごあいさつ

新事務長 石 関 繁 雄

同窓会会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。又平素母校発展のため格別なるご協力を賜わり感謝申し上げます。本校設立以来二十年事務長でありました中村氏は本年三月末日をもちましてご勇退されました。その後任としてお世話になることになりましたので紙上をお借りしごあいさつ申し上げます。

力し学校造りをされ現在の太田工業高校を築かれたご尽力に感謝し、私もこの良き伝統を継承するとともに学校教育の目的をしつかりと見つめ事務を通して微力ではありますが全力をつくす所存でございます。一層のご指導をお願い申し上げます。

同窓会員の皆さんには在校中は大変授業料等の納付関係では一方ならぬお世話になり、県等の会計検査、監査等においても何時も納

前事務長中村氏が本校開校のため着任したのが四〇才の時であったそうですが偶然にも私もちょうど同年令であります。開校当時金山高等学校で生徒、職員が一致協

また、本校は本年創立二十周年を迎えることになりました。これで名実ともに東毛の工業高校としての伝統校となつたわけであり、今後、益々の発展と皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

第一回工業祭の思い出

第二回会計 矢 島 健 一

第一回の工業祭を行った私達は、初めての行事であり生徒会としても今までの資料が何もないため、他の学校で学校祭が行なわれると言う話を聞くと他県までへも見学に行き参考になるべき資料集めを行いました。又各クラブの部長さん達もできたてのクラブがようやく一人歩きできようとしている時大行事を迎へ大変苦労した事と想います。私も生徒会の会計を担当しておりましたので各クラブの予算の割振についてクラブの部長さん達と少ない予算をどの様に配分しあつたら良いか夜おそくまで論議し各クラブがより良い催しものが行なえる様努力したのをつい最近の様に思い出されます。

の行事も色々検討を行い無線部ではクラブ員の作成した無線機の展示を行いアマチュア無線のPRに努めました。又ステレオアンプを作りコンサートをを行なおうと秋葉原まで部品を買いに行き手作りのアンプでコンサートを行いました。これが大変人気を博しました。又珍ガラ展と言う奇妙な催しを行いこれも大変人気があり関係者の方には忘れられない思い出の一つだと思えます。学校も先生も若かった太工が第一回の工業祭を立派に実行出来たのは先生と生徒が一つの目標に向いお互が大変な努力を行った結果だと思われれます。今回二十周年の工業祭が行なわれる様ですが関係者の努力を期待するとともに太工と同窓生の益々の御発展をお祈り致します。

学 生 時 代

家 中 菊 治

私が本校を卒業して早三年が過た。今、学生時代を振りかえるといろいろな事が思い出されます。電気工事士試験のこと、先生のこと

と、なかでも生徒会長経験は、忘れられないことです。これからそのことについて、話して行きたいと思えます。

あれは、私が2年の6月のことでした。私は、クラスの皆の陰謀で生徒会長に立候補するはめにになり、プールの設置の問題をとりあげて演台に立った。そして、その演説のせいかはわからないが、決戦投票では四票差で当選しました。生徒会長になつてからと言うものの、私の学校生活は今までとはまったく違つて、資料の整理、工業祭の計画、生徒会行事の立案等、やらなければならぬことは山ほどあり、いつもおそくまで生徒会室に残っていました。忙しかったけれども、その忙しさの中で充実した日々だったと今になって思えます。

生徒会長になつて、変つたことはもう二つ有ります。それは、六校ミーティングです。六校ミーティングとは太田地区六校の生徒会役員が集り、それぞれの高校がかかえている問題とか共通なテーマについて話し合つたりする場なのです。私は、あまりにも活発な意見が出るので最初はア然としていました。このミーティングの中で私は、いろいろな事を学び、同じような問題が各校にあるというところで生徒会活動を行つていくうえで大きな力となり、私自身でもかなりのプラスだったと思いま

す。

今、考えるといろいろと反省する点が多いが、やるだけはやつたという気持です。しかし一つだけすつきりしない問題があります。それは、プール設置の件です。この件は前校長の徳江先生が全生徒の前でプールを作ると約束した時に解決したか見えませんでした。しかし約束は一年たつても二年たつてもまもつてもらえないし、私が卒業して三年たつた今でも実現していません。太田工業高校も今年で二十年、これを機会になんとか念願のプールを実現したいものです。そうでないといつまでもあの演説のことが思い出され、生徒会長としての荷がおりた気がしません。



苦勞に負けるな

第二回生 高田 隆

第二回生の入学試験はまだコンクリートもかわききつていない建築中の校舎の一角で行われました。体育館も校庭の整備も入学後完成しました。それだけに私たちは学びやを愛する気持は一層のものがありました。

こうして始まった学生生活は、チームワークが何より緊要でした。なぜなら伝統のない新設校というハンディキャップを背負って地域社会に就職関連会社に太工高をPRしていく必要があったからです。一例として、遠く京浜工業地区へ名もないわが校をPRに行った当時の先生方の苦勞は大変であったことと思います。

このため生徒も実に堅実でした。丸坊主で制服制帽はもちろんのこと質実剛健を合い言葉に学級運営を一丸となつて進めました。工業祭も参考資料がないため他校の見学から初めました。すべてこの調子でしたが今思うとひとつひとつが楽しい思い出としてうかびます。今、私は郷土の誇りと母校の名譽のため大東京電力の中でけんめ

いがんばっています。在校生諸君も苦勞に負けないで先輩に続いてください。健闘を祈ります。

趣味を生かして

岩瀬 貞治

只見線
私が初めて只見線を訪ずれたのは、一昔前の昭和46年5月のことだ、山の北斜面には、まだ残雪があり、若葉の吹きだし始めた早春の季節であった。

蒸気機関車CIが、客車を引いてエメラルドグリーンのごとき只見川にかかる、アンダートラス型の第三只見川橋梁(会津宮下ー早戸間)上を、白い煙をはき、ポーと汽笛鳴らして走る姿が、清流に写しだされ、その何とも云えぬ美しさにただみとれ、カメラのシャッターを押すのも忘れ、ただポカーンとしてしまつた。

これらしい私の只見線通いが、SLの消えた昭和49年9月まで何十回と繰り返された。深い山間をぬりように流れる只見川、それに沿って走る只見線には多くの鉄橋がかけられ、アーチ

橋、トラス橋、アンダトラス橋等美しく、四季折々にうつり変わる山容とともに、エメラルドグリーンの清流に写しだされる姿が、すがすがしく私をひきつけた。私の大げさすぎるほどの只見線見聞録に誘われて? 今夏ひさしぶりに、会社の仲間と三人で只見線へ行く事になった。今では、蒸気機関車は走っていないが、ディゼル機関車DEの引く短い貨物列車は、きつと、エメラルドグリーンのあの只見川に、DEの赤い車体が似合うにちがいないと思うのである。



自分自身の

目的に生きる

第十一回生 細堀 宏治

太工を卒業して、早、七年目になります。自分は太工を卒業しま

したが、家業の豆腐屋をやっています。理由を述べると長くなるのでここではやめますが、現在では豆腐屋さんと呼ばれる事に、何の抵抗も感じなくなりました。七年間を振り返れば、色々物語るものがありますが、その間の悩みや、問題は、何とか今日まで乗り越えて来たつもりです。二十五才になりませんが、結婚はまだです。世の中そんなに甘くはないのですからね。でも、二、三年以内ぐらいいまでにはしたいと思っています。と云いつつ二、三年たつてしまいました。自分が仕事の他に、青年会活動を行なっています。地元の菲川地区の青年会と、太田市の連合青年会で役づけをしています。若い時代の青春を、青年会にかけています、と云うと聞えは良いのですが、なかなか思った様には活動できずきびしい社会情勢のなかで頑張つてやっています。皆さんも自分自身の目的に従つた生きかたをしていると思いますが、僕の場合は、青年会活動でした。まあ、人それぞれだと思えますが、僕も仕事に、青年会活動と毎日忙しい日々を送っております。皆様方も身体に十分気を付けて頑張つて下さい。ゴキゲンヨウ

学生時代

第16回卒 金子 典之

学生時代と言つても、自分が、学生時代の時、まったくその様な感傷がなかつただけでも、実際は、とても楽しい思い出であつた。しかし、苦しい時、つらい時もあつたけれども、やはり一番すばらしい時だつたのかも知れない。それらを楽しく過ごせたのも、学生時代にクラブ活動をやってたせいかもしれない。クラブでの友達などは、社会に出ても、やはり一番の友達と思う。

クラブでは、夏休みなどでは、合宿などをし、同じ屋根の下に寝て、同じ釜の飯を食べて、練習では、精一杯、汗を流し、又、夜などは、夜中までふざけて遊んでいた、思いでの中で、一番脳裏に燃き付いている。

社会に出て、もう二年目、社会の中でも、この様なすばらしい思い出となる様に、一日一日を、一生懸命に生きていく事が、自分にとつても、一番の課題である。

星野 久幸

卒業して4年、ほんとうに月日の過ぎるのは早いものです。近くの学校なので、よく学校の前は通るが、学校に足を運ぶ機会は、ほんとうに少ないけれども、通るたびに、なつかしく感じます。

同窓会のとき、一度クラスの仲間に出会つたとき以外は、同級生とはほとんど会わない。職場が違うとなかなか、機会がないものである。みんなそれぞれの道を行く、進学するもの、会社に就職するもの、家を継ぐ者、それぞれ色々な道を進んで行つた。それが、学校ではないかと思う。色々な道を行って来たものが、ある時間だけ、同じコースを歩んでまた、それぞれの道を行く。

私は今、病院でレントゲン技師の仕事をしている。4年前、たまたま受験した専門学校に、たまたま入り、運よく卒業して、今の職場に入った。しかし専門学校時代の仲間は数人が保健所で、あとは皆病院に就職している。結局皆、同じ仕事をしていることになる。仲間とは話しが会うけれども、なんとなく、おもしろ身がない。色々な職業の話のほうが、内容は

わかりにくい、おもしろい。今は、いろんな職業に友人が欲しいと思つている。全然住む生活の違う友人を作れるのが、学校へ行くメリットではなからうか。

早弁と検査

一期生 松岡 悟

なぜ早弁をするかという、当然、腹が減るからするのであるが他にも理由があつて、早めに喰つてしまふ奴の大半は、自分の弁当が他人の胃袋に納まつてしまふのを防ぐ目的をもつていた。その日のエネルギー源である弁当の量が減つてしまふことは死活問題であつたから、皆な充分注意していた筈であつたが、ヤル奴はいつもヤルしヤレル奴はやはりヤラれていたのである。だから本当の昼めしの時間が来て弁当の蓋を取ると、「あッ」と驚く訳であるが、あの祭である。喰われた奴は文句を言つたりはしない。又、喰つた奴も半分は必ず残しておくという変な了解ができて居た。

一方、弁当が無事であつた奴も屋敷然として喰つていようものな

ら、右や左、肩越しから侵入の害が伸びて、エネルギーの源はいつも簡単にサラワレてしまふのである。なかには、弁当を抱えたまま、鍵の懸かる便所の内へ逃げ込む輩まで出る始末で、屋敷を喰うとは名ばかり、呑み込んでいくといつた方が相応しい気分であつた。

しかし、弁当を狙う奴に他意がある訳でなく、大体は忘れて来たとか、寝すぎて朝飯を喰えなかつたとか、誰彼のおカズが旨そうだから、というくらい理由でしかなかつた。だから喰つた奴は、旨い思いをした割にさほどの罪悪感も観せず返つてアツケラカンとして居た。しかし、喰えた奴は、時々神妙な視線を喰つた奴の方に流し乍ら、残りの半分をカミ締めつつ喰つたのである。

何れにしても早弁は学友間の問題であつたから良いが、これが教師と生徒の立場になると誠に厄介なことになる。当時、特に正されていたのが長髪についてであつた。毎月、3、4回抜打ちで調べられる。学友の大半が廊下に整列させられて、教師が一人一人の頭を逆撫でしていくものであつたが、少しでも色気づいた刈り方や長髪まがいの頭は、有無もなくゲンコツが飛んできた。ゲンコツを受け

ば、次の日には丸刈りのツルツルの頭にならなければいけない。しかし、それでも検査の度に痛いゲソコツを貰う奴が居る。時には教師のゲソコツをひよいと交わし、ニッと笑う奴も居る。そうなるにあとは別室においての説教である。同じような輩が集められ、いつ果てるとも知れない説教を聴かされる羽目になっていく。

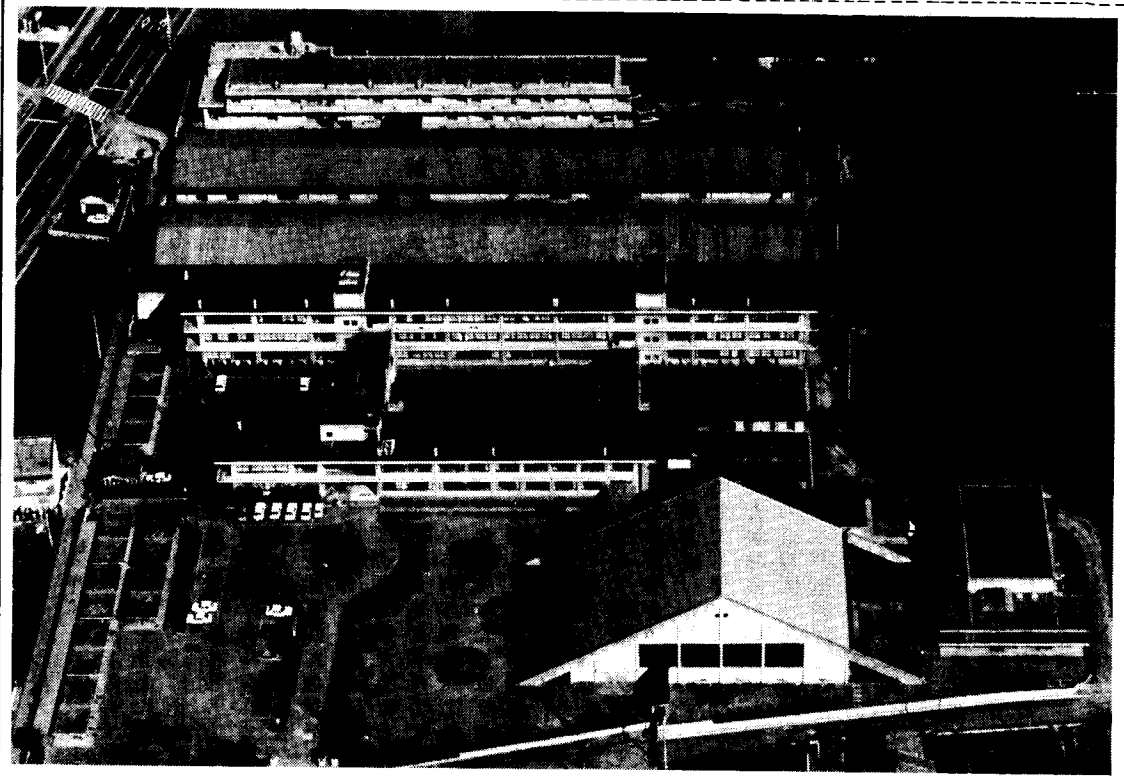
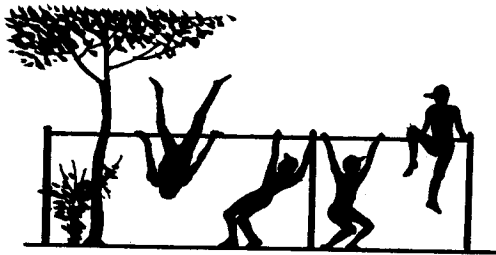
しかし、説教というものは、喋る側と聴く側にハッキリ大別されてしまうので、生徒の多くは、俯いたまま時の去っていくのをジッと待てば良かった。

完全な坊頭になることは説教に呼ばれた段階で決つたも同然であつたから、これといつて特に考へたり悩む必要もなかつたのである。そして、長い説教が終るのも概ね昼飯の少し前が多いことも承知していた。

「今日中に、丸刈りにしてこい」と云い残して教師が出ていってしまふと、あとに残るのは同類の輩だけとなる。

そこで彼等は、ほんの少しだけ時間をおいてから一勢に自分達の教室へと散っていく。そして、とうとう無事に残されていた我が弁当に、快心の微笑を觀せ乍ら喰らいついていくのであつた。

まるで中学の林間学校を投影したような毎日、悪き良き時代の話である。
おわり



懐しき恩師の 母校の思い出

- ① 在職中
- ② 現住所
- ③ 勤務先
- ④ 本校の思い出または印象

高城 幸一 先生

① 41年3月〜45年3月

② 伊勢崎市波志江町三六八一の一六

③ 伊勢崎工業高等学校

④ 私が在職中の四年間は新任時代であり、定時制新設時でもあったので、私としては夢中で過ごしてしまいました。気合の入った生徒が多く自分としても色々得るところがありました。

飯島 博志 先生

① 42年5月〜45年3月

② 埼玉県深谷市常盤町五七

③ 長谷川香料 深谷事業所

④ 高校としての伝統が出来つつある時であり、先生方もはりきっていたと思います。又、同窓会としても会員の近況を調査するため住所録を作成した時です。生徒と全校マラソンを走り、あの時大変苦しかったのですが、今はなつかしく思い出します。

横山 浩 先生

① 37年4月〜46年3月

② 館林市富士見町九一〜九

③ なし(保護司として、微力を社会奉仕しています。)

④ 昭和37年より46年まで九年間勤務しました。恰も、太工草創期の頃でした。新設校の基礎がために少しでも協力できたことを嬉しく思っています。

六年間、進路指導の担当でした。世界史や倫理社会の授業も思い出されます。

「創立十年のあゆみ」の編集委員の一人でしたがあれから又十年がすぎました、感無量です。

井上 有子 先生(旧山岸)

① 39年3月〜46年3月

② 茅ヶ崎市円蔵二四二五の十二

③ 在宅(無職)

④ 皆様お元気ですか、太工を去って十年の歳月が経過してしまいました。在職中は私の青春時代と言えるもので、楽しかったことばかり思い出されます。

遅くまで図書委員の人達にお手伝いしてもらった蔵書点検、整理のこと、又皆さんと一緒になつて楽しんだ工業祭、図書委員会の県外旅行等々、もう一度経験できたらとはかないことを思う歳になつてしまいました。

現在は小学二年生と幼稚園の男子二人の子供をガミガミしかっているママゴンです。

湖南方面へお出掛けの折りには是非お立ち寄り下さいお待ち致します。

近藤 義道 先生

① 43年4月〜47年3月

② 茨城県稲敷郡茎崎村下岩崎 一四六七

③ 東洋大学附属牛久高等学校

④ 校門の側にヒマラヤ杉を植樹したのが、大きくなったでしょう。わが家から運んだことが思い出されます。

森田 信 先生

① 41年4月〜46年3月

② 群馬町足門二の沢一三八九

③ 群馬県教育センター

④ 印象に残るのは二点

第一に、学校をとりまく美しい田園風景。新緑のころ、遠く竜舞の森の緑を背景に鯉鱈が泳ぐ風景はとりわけ印象深い。

第二は、生徒諸君の坊主頭。現在ではもちろん、当時でも全校生徒が残らず坊主頭の高等学校というのは珍しかった。

草創期にある学校の伝統作りへの気が感じられたものでした。

常見 静代 先生

① 41年4月〜44年3月

② 東京都葛飾区高砂五の一〇の三

③ 葛飾区立奥戸小学校

④ 高校を卒業してすぐ勤めたのが本校でした。保健の先生の産休の代替して三ヶ月だけ保健室勤務でした。私より一才若い人達が生徒でしたので生徒達とよくおしゃべりをしたものでした。生徒会の担当の先生におしかりを頂いたこともありました。何をすることも新鮮で楽しい仕事だったように思います。

新井 嘉夫 先生(旧根岸)

① 40年4月〜46年3月

② 前橋市下大島町九六四

③ 県立聾学校

④ 40年第一回卒業生を送った年の4月に事務職員として採用されました。今思えば、新設校の新しい校風、これからの伝統作り

に先生方が熱心に取り組んでいる姿が忘れられません。又、中村事務長さんの厳しい指導を受けたことが現在の私の仕事に相応なウエイトを占めていると思います。

同窓会も20周年を迎え、既に卒業生も五千人位になったと思います。益々の発展を願っています。

竹内 保治 先生

① 42年4月〜48年3月

② 高崎市羅漢町六三

③ 上武大学

④ 生徒諸君が真面目で、構内がい

つも清潔に保たれていたことは県下に誇れることと思っております。

母校創立二十年記念祭

開かれる!!

十月三十一日(土)午後
十一月一日(日)

母校も今年で創立二十年を迎えることになりました。日頃仲々学校に立寄る機会のない同窓生の皆さんもお出で下さって、昔を偲んだり、現在の学校の姿をご覧になつたりして下さるようお願いいたします。

「二十年記念誌」・「同窓会報」を配布!!

両日は同窓会でも役員が出て、簡単な受付を設けて、同窓会報と創立二十年記念誌(学校発行)を会員の皆さんに配布したいと思つておりますので、お出での節はぜひ受付にお立ち寄りください。両日の内容の主なものをあげると次のとおりです。

- 一、文化クラブ・必修クラブ・専門委員会等の展示発表
- 二、三科によって行なわれる重点的な展示実験催物等
- 三、クラスによる催物やブラスバンド部、ギタークラブによる演奏等

● 学校だより

職員移動 昭和五十六年四月

中村勇司先生(事務長) 定年退職

後藤友藏先生(機械) 桐生工業高定時制 教頭へ

田島勝美先生(理科) 太田女子高へ

菊地貞雄先生(機械) 伊勢崎工業高へ

荒木田三郎先生(国語) 伊勢崎女子高へ

長弘之先生(電気) 桐生工業高へ

岡安弘先生(社会) 前橋商高へ

増田芳之先生(工化) 桐生西高へ

赤間和彦先生(工化) 伊勢崎工業高へ

大井広行先生(社会) 高崎市女高へ

木村允先生(定時制教頭) 太高定時制教頭へ

星野充先生(定時制国語) 大間々高校定時制へ

菅原茂先生(定時制機械) 桐生工業高定時制へ

木村常昭先生(定時制機械) 伊勢崎工業高へ

小林玲子先生(事務) 桐生西高へ

今尾隆吉先生(社会) 太田女高より

河上健二先生(機械) 桐生工業高より

今成孝雄先生(工化) 伊勢崎工業高より

登田哲郎先生(工化) 伊勢崎工業高より

石関繁雄先生(事務長) 板倉高校より

和田治子先生(事務) 伊勢崎女子高より

次の先生方は新任の先生です。

米山文雄先生(電気) 横山利行先生(理科)

石井利直先生(国語) 原田実先生(社会)

入山巖先生(機械)

● 編集後記

ここに二十周年の案内を兼ね、第11号会報を発行しました。又原稿をいたした方々に紙面をお借りしてお礼申し上げます。

大関記

校 歌

一、赤城榛名の 山聳え

すそ野豊かな 上毛野

ここに集いて われらいざ

真理を求め 技をみがき

明かるく築く 新世代

ああ母校 太田工業高校

二、流れ絶ゆまぬ 大利根の

清き心を 鑑とし

ゆかりの岡の かたほとり

雄飛の若葉 茂り合い

われらの道は ただひとつ

ああ母校 太田工業高校

三、みどり輝く 金山の

古城の松に 風薫り

郷土の誇り うけついで

希望は高く 友愛の

ほまれは永遠に こだまする

ああ母校 太田工業高校